

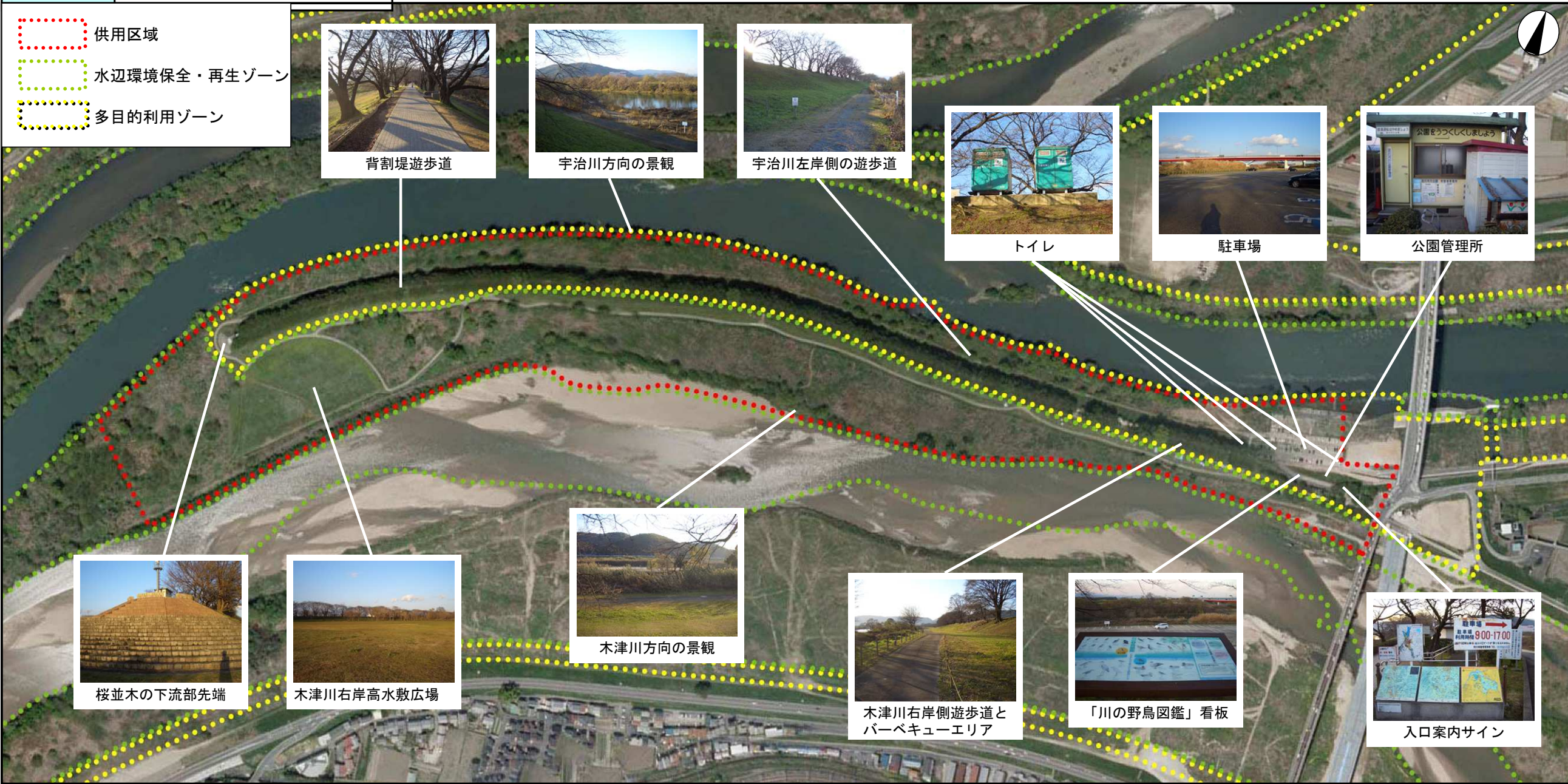
淀川河川公園 背割堤地区 公園整備計画

平成 23 年 11 月

近畿地方整備局 淀川河川事務所

1. 背割堤地区の現況

年間利用者数と主な公園施設		各視点からの現況			
年間利用者	年間利用者数 272,762人 (平成22年度) (うち214,673人は、4月(桜まつり実施月)に利用)	ゾーニング計画の実現	魅 力	快適性	つながりの改善
主な公園施設	桜並木約1.4km(桜約250本) トイレ4ヶ所、管理所1ヶ所、 駐車場160台	現況 - 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 - 背割堤より宇治川側の多目的利用ゾーンに駐車場が整備されている。 - 便益施設(管理所、トイレ)は多目的ゾーン内、かつ堤防上に設置されている。	- 堤防上約1.4kmにわたりソメイヨシノが並木として植えられており、毎年4月の桜まつりには約20万人が利用している。 - 背割堤の先端部には、準絶滅危惧種のノウルシなど貴重な生物が生育・生息する多様な自然環境がある - 石清水八幡宮、男山、天王山など歴史が感じられる景観を眺望できる - 桂川-木津川のサイクリングルートの接続部であり、自転車愛好家がよく立ち寄っている。	- 背割堤の遊歩道は小舗石舗装であり、車椅子等の通行には不適である。 - 木津川側の周遊園路の一部に段差が生じている。	京阪八幡市駅から約1km徒歩約15分の距離にあり、左岸側からの公共交通によるアクセスは良好である。一方、右岸側からは路線バスを含め有効な公共アクセス手段は整備されていない。



■ 2. 背割堤地区の整備方針

淀川河川公園基本計画に基づき、地区特性を踏まえ、背割堤地区の整備方針を以下のように設定します。

淀川河川公園の整備方針（基本計画）

（１）ゾーニング計画を新たに定める

- 基本計画における地区区分計画を改め、淀川の自然環境が縦断及び横断方向に連続するようなゾーニング計画を新たに定める

（２）淀川の自然環境の保全・再生を図る

- 自然環境の連続性に留意しながら、自然環境のネットワーク及び淀川の特徴ある水辺の景観を保全・再生する
- 干潟や砂州、ヨシ原、ワンド、たまり等の水陸移行帯や淀川固有の生物が生息・生育できる場を保全・再生する

（３）淀川らしい利用ができるようにする

①淀川の自然環境と利用との調和を図る

社会動向の変化、周辺の都市の状況、地域住民・利用者のニーズや意見を踏まえ、地区ごとの特性を考慮しながら淀川の自然環境と利用との調和を図る

②淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

地区ごとの特性を活かし、水辺での水遊びや自然観察、原っぱでの遊びや運動、休憩、散歩など様々な形で淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

③淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ

散策やジョギング、サイクリングなどが行えるよう、淀川全体をつなぐとともに、周辺地域と淀川にまつわる歴史・文化資源の散策・周遊等のルート設定や、広域避難地としての役割など、まちと淀川をつなぐ取り組みを行う

④淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる

水辺越しに見える都心部の眺望景観、北摂連山や天王山、男山、生駒山地などの山なみと一体的な景観との調和を図り、水辺の景観を楽しめる場をつくる

（４）淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす

- 渡しや舟運、旧毛馬閘門・洗堰や川港跡、樋跡、三川合流部などの保存や展示、言い伝えを後世に伝えるなど、淀川にまつわる歴史・文化の資源を活かす

背割堤地区の特性

- 天王山や男山などに近く、河川横断方向の自然環境の連続性が保たれ、特に背割堤の先端部には豊かな自然環境が残されている
- 淀川三川合流部にあり、宇治川や木津川と背景の山々が織りなす美しい景観が存在する
- 延長約 1.4km の細長い形状の公園であり、周遊に時間を要する
- 桜並木が有名であり毎年多くの人々が訪れ、バーベキューを楽しむ団体が多い

背割堤地区の整備方針

◇地区固有の自然環境の保全・再生を図りつつ、利用との調和をめざします

- 背割堤先端部など貴重な生物の生息・生育の場の保全と、人々が自然や水辺に親しむ活動の共存・調和を図ります

◇人々が集い、水に親しみ、憩う場づくりをめざします

- 水辺へのアクセスを改善し、気軽に水に親しめる空間づくりを進めます
- 遊歩道の移動の快適性を高めるバリアフリー化や、公園としての魅力を高める周遊性の確保を図ります

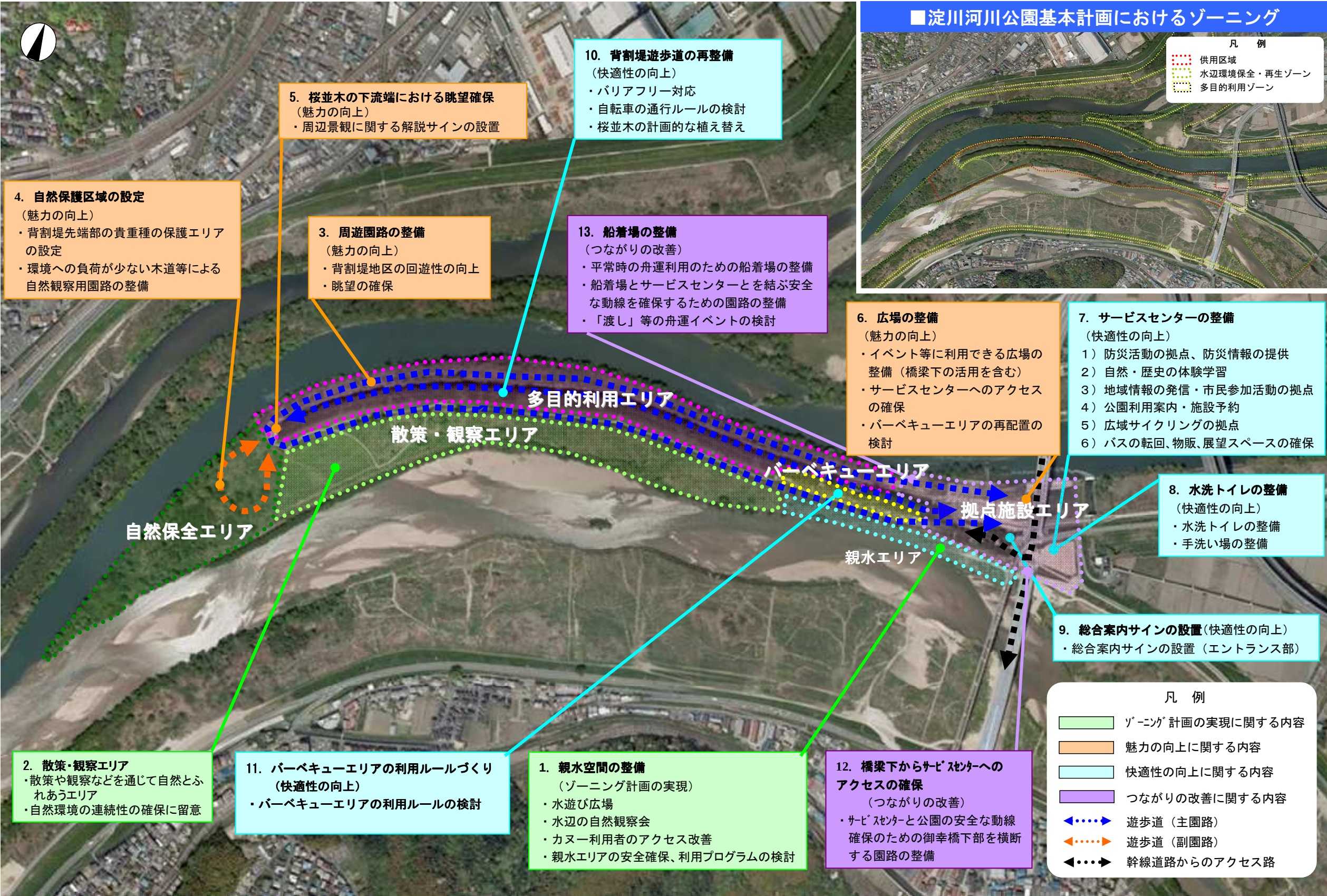
◇三川合流域における地域間交流の拠点づくりをめざします

- 三川合流部の立地特性を活かし、広域的な地域情報の発信、歴史・環境学習など、地域間交流を促進する拠点施設を整備します

◇水辺の景観を楽しめる場づくりをめざします

- 天王山、男山などの山なみ景観を活かし、三川合流部の歴史と自然を感じられる水辺景観を楽しめる場づくりを進めます

■ 3. 背割堤地区公園整備計画



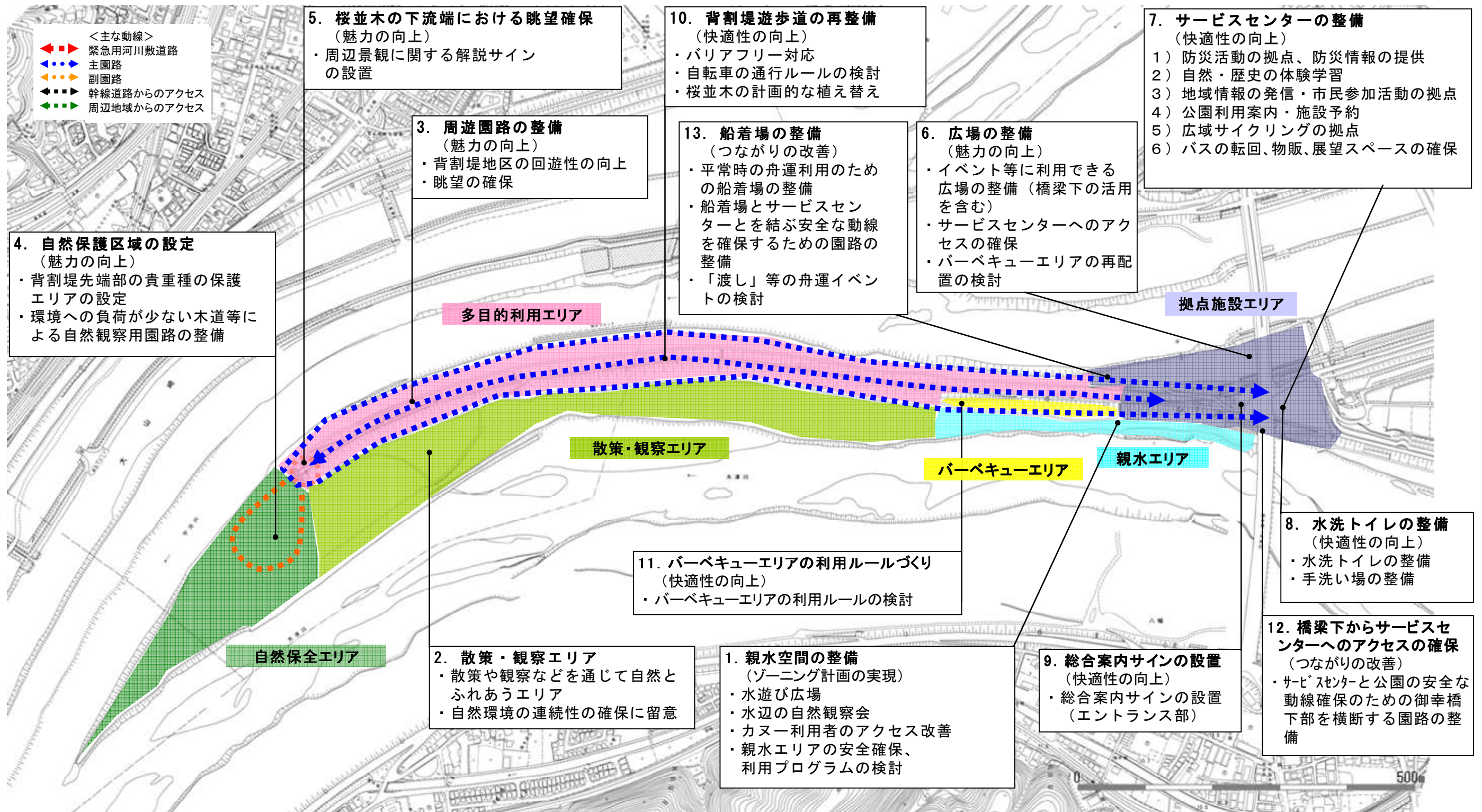
※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

■ 4. 背割堤地区の整備内容

No.	整備項目	該当項目	整備内容
1	親水空間の整備	【ゾーニング計画の実現】	・背割堤地区の木津川側は水深が浅く、淀川河川公園の中では水辺へのアクセスが行いやすいため、親水空間を整備する。 ・安全対策を含めて管理方法や、自然観察会等の利用プログラムを検討の上、水辺利用の推進を図る。 ・カヌー等による水面利用を行いやすくするため、水際のスロープの改善を行う。 ・親水エリアの安全確保や利用プログラムを検討する。
2	散策・観察エリア	【ゾーニング計画の実現】	・自然環境の連続性の確保に留意しつつ、散策や観察などを通じて自然とふれあうエリア。 ・園路や案内板などの整備に留め、グラウンドやバーベキューなど過度な利用は行わない。
3	周遊園路の整備	【魅力の向上】	・往路復路で宇治川と木津川の景色の変化を楽しめるよう、宇治川側にも園路を整備し、回遊性を高め、眺望を確保する。
4	自然保護区域の設定	【魅力の向上】	・背割堤先端部には、クサノオウ等の貴重な生物生息環境が残されているため、保護エリアを設定する。 ・自然環境と利用との調和の一環として、環境への負荷が少ない自然観察用園路を設置して見学ルートを整備する。
5	桜並木の下流端における眺望確保	【魅力の向上】	・桜並木の下流部から左右岸の景観を楽しめるよう、眺望を確保するとともに、周辺景観に関する解説サインを設置する。
6	広場の整備	【魅力の向上】	・駐車場の上流側にイベント等に利用できる広場を整備する。整備にあたり、橋梁の下部空間の有効活用を検討する。 ・駐車場や広場からサービスセンターへの安全な動線を確保するため、園路を整備する。 ・バーベキューエリアの再配置を検討する。
7	サービスセンターの整備	【快適性の向上】	・上流三川の合流部であり、周辺道路網の整備もあり、三川合流部の周辺へのアクセス性は向上している。 ・防災活動の拠点、防災情報の提供、公園の案内・管理、住民参加拠点、体験学習、周辺情報発信、物販などの機能を備えたサービスセンターを設置する。 ・広域サイクリングの拠点とするとともに、バス転回所を整備する。 ・岩清水八幡宮や大山崎山荘など、他の視点場からの三川合流部の眺望と連携を図りつつ、背割堤や兩岸の山々を展望する場を整備する。
8	水洗トイレの整備	【快適性の向上】	・公園利用者の快適性を向上し、バリアフリー対応を図るため、水洗トイレを整備する。
9	総合案内サインの設置	【快適性の向上】	・公園のエントランス部に総合案内サインを設置し、背割堤地区の魅力や施設配置、利用ルール等に関する情報を提供する。
10	背割堤遊歩道の再整備	【快適性の向上】	・現在の園路は、昭和50年代に整備された小舗石舗装であり、車椅子・ベビーカー等での利用に不適であるほか、複数の場所で破損・欠損が生じている。 ・景観にも配慮をした上で、園路のバリアフリー対策を実施する。 ・地域協議会において、背割堤地区における自転車の通行ルールを検討する。 ・老木化した桜並木について、桜まつりの継続的な実施に影響がないよう、各樹木の状況を調査し、計画的な植え替え等を実施する。
11	バーベキューエリアの利用ルールづくり	【快適性の向上】	・地域協議会において、背割堤地区バーベキューエリアの利用ルールを検討する。
12	橋梁下からサービスセンターへのアクセス確保	【つながりの改善】	・サービスセンターと公園の安全な動線を確保するため、御幸橋の下部を横断する園路を整備する。
13	船着場の整備	【つながりの改善】	・平常時の舟運利用のための船着場を整備する。 ・船着場とサービスセンターとを結ぶ安全な動線を確保するため、園路を整備する。 ・三川合流部の周遊や渡し等の舟運イベントを検討する。

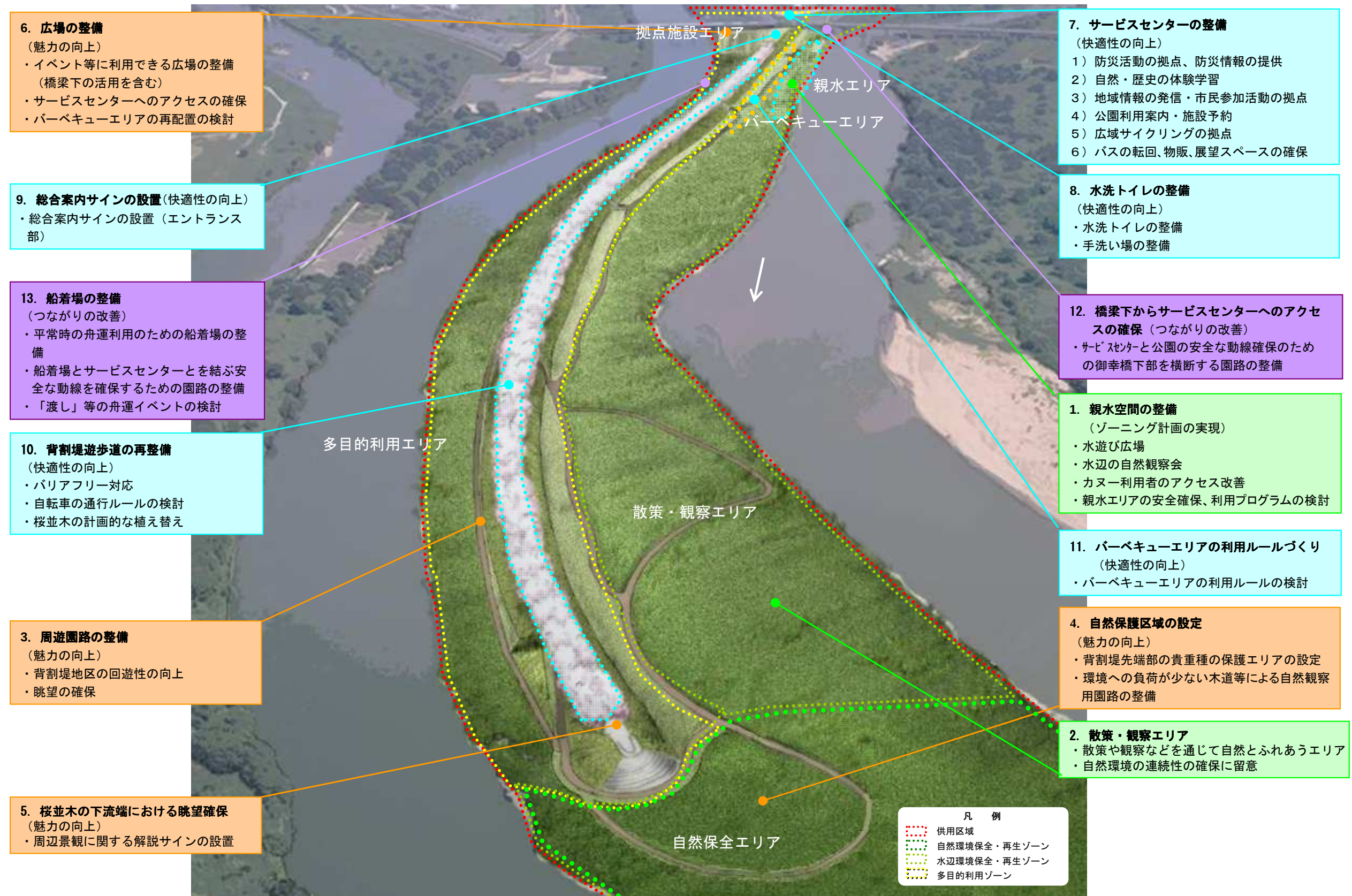
※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
 ※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

■ 5. 背割堤地区公園整備計画図



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
 ※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

■ 6. 背割堤地区の公園整備イメージ



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
 ※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。